嘉永七年 改元安政

安政二年

安政三辰年

御用留

十二

特別
ト2
1897
12

十 49
號 1851
卷 12

明治廿七年二月十二日
[illegible] 氏寄贈

嘉永七寅年

一 禁裏御所出火之事
二 町地震之事
三 新鋳之事
四 筒井肥前守殿ゟ御伺書ニ付御達
五 熊野之山
六 二条町ゟ上納
七 品川御台場出来大筒之図
八 禁裡御造営上ヶ方町触候迄
九 熊野三山新書
十 強盗之者と捕へ方之事 書状 出来
十一 京御所御普請之石
十二 町触之事
十三 新造
十四 品川ちや丸

嘉永七年

内藤耻叟

門 ト2
號 1897
巻 12

十五 新真田組物

十七 無縁天山

十九 冬扇白ハ達ての

十六 無縁天山

十八 多張維舟

二十 半両州ハ積重利物

一

嘉永七寅年

一正月十七日半両州ニ而

林大学頭殿浦賀表ニ而御面会有之候由ニ而異人共

同所并ニ武州本牧向上陸いたし候処亜墨利加人江被下候

品々之内同月廿三日御下渡相成市中之者共見物致候

右御役人衆江被仰付候処右品ニ而応接被為在儀ニ付右儒者

右之品ニ積附致候趣ニ而右之品々後日申渡候由

以上

平川半七殿

好作り様

安田兵右衛門

中山喜之助 印

本村嘉兵衛 印

二

一 平川半七与申者 林家右

此者義是迄兼々

以[illegible]御役[illegible]所 [illegible]千以上九付井戸掛馬方

頭[illegible]御用[illegible]此路之道一[illegible]土先

平川半七[illegible]

平川半七

如来[illegible]通兼而来[illegible]　[illegible]千以[illegible]何方[illegible]

[illegible]先[illegible]之[illegible]致[illegible]御[illegible]

[illegible]

[illegible]

三年以[illegible]

[illegible]

一 二月六日 出羽守

當月十八日數寄屋江 御出被成 御覧 之事 被仰付

御用之節 之人 可有之 候 以上

二月六日

右者 返書 被仰 [illegible] 御 [illegible] 候

有馬中務大輔 [illegible]

伊東遠江守

稲葉長門守

林播磨守

高嶋源八郎

大野 [illegible]

山西屋[illegible]
松岡[illegible]殿

扣

右之通出来候以上

一 二月廿三日 [illegible]

以手紙致啓上候、然者当春[illegible]
[illegible]
[illegible]銀[illegible]
[illegible]
中[illegible]以上

二月廿三日

[illegible]

[illegible]様

一 二月廿三日 [illegible]
以手紙[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]以上

二月廿三日

村上[illegible]

[illegible]

一　三月四日
鯨組之儀ニ付左之通被仰出候
御用之事新規覚
鯨組之儀ニ付御家中當時迄之内先年より被仰付有之金
百両無之返上納候処當時金銀調兼候ニ付
願之通聞済之上被納候新規金百両被仰付
候内四百両ニ而上納之金子差出候筈ニ付
一　二　諸願金二口ニ而御自筆御拙者ニ而相渡ニ
一つ[illegible]金子[illegible]金子[illegible]被仰付[illegible]

文政元年中ニ被仰付一下ニ而今日数年ニ而相成
候得共未返上不相済別段之通ニ而被仰付
無之上済方難相成候ニ付[illegible]
[illegible]不残同様書物出来候ニ付
難有[illegible]其上[illegible]世中ニ稀
[illegible]頼上[illegible]世上之[illegible]
不行之[illegible]難有[illegible]御[illegible]
[illegible]事可[illegible]出精[illegible]

之儀新ニ出来候様御願ニ付而者後難之節者右者共引請
以上
寅
三月
和泉屋
佐次郎

東新地元

清兵衛新町ニ而出来候者御郷組頭ニ而町年寄
壱人ニ付清左衛門金六両
此度右者ヨリ引取候金銭取扱候ニ付合金子

之候趣尚申出候ニ付此度新規相願
取扱候儀御引受事ニ付此度取扱候者
迄之者共取扱候者此度取扱候
右之趣相願候ニ付右組頭年寄
右之年々正月七月両度ニ差出候
之者共ヘ差支無之様取計
清兵衛殿ニ預ケ置候以上　東新地元

安政二卯年三月

鶴川
柏木　大蔵

紀州様
　御家老衆中
　御留守居衆中

和泉守内
　堀 源　印

申上置候覚

諸方屋敷内丸殿ニ而館様之上候事御用中深
候之儀者之為不被成候月御座候書物預り御物
此様寄申上候ニ而申候ニ候ハ者ニ而候事

此度之書付之人之御事龍眼寺ゟ参り月
紙面之通相違無御座候ニ付此様之候
存候ニ付一紙ニ而遣し候処ニ仰付候
[illegible]相違無御座候得共申上候
念之為如斯御座候以上

三月六日

和泉守内
　堀 四郎

六

一 三月十五日和泉守殿ゟ書付上候而遣候ニ
付[illegible]之為ニ参上仕候事

七

三月九日一ト盛町ゟ重揃毎取納可致旨蒔洲ゟ
廻達有之

覚

金拾両

右者和学所御経費辞書類揃之分御用済
慶応五年分金拾両上納仕候以上

巳
三月

林次郎

一 三月廿日林家方ヘ差出ス

海防掛り様方別紙之通御達有之候間右写之通
御達ニ付御座候間写を差上候御承知の為申上候旨
右之段為御知申上候以上

三月廿日

林 ――

海防掛
須藤播磨守
御中

別紙
林大学頭様

松平河内守
脇坂
池田播磨守

此度明海御普請場御普請所二番品川御台場御用
私儀姻地去ル五日御用被仰付御記録内外御済候
境之事大公台平路地町方御渡し御相成
候ニ付此段申上候
亥三月
右衆年中御普請八月十六日晦日迄ニ而相済ニ
御座候 相成申候御届 申八月廿日済ニ
品川台場御普請済 御奉行 河鳩殿

八
立会品川御台場中田川右御者地境江
棒杭打一件出来ニ而
一 四月十六日御普請方迄通
以手紙上候
埜書記上候ニ付御座候所ニ而
御近普請不普請致 御出候得共
之御通御届出候ニ付御座候此段申達
一 御普請所御出来此段申上候以上

四月十六日

右之通　樽

九
一　四月中無拠之事ニ付　新吉原江　新吉原町　一同

竹田源治
浅草新堀町
順右衛門

相文左之通相書出

是迄市中ニ新規相候節之事ニ付出来之品

当月ニ者書物開板言趣意同月ニ　見出　力有之

右之事ニ御座候所ニ候而ハ趣意ニ候様相成

渡世之義ニ付　何等之趣を以相如何ニ而新規品之

事致し出候得共上付之　当月廿日迄ニ之用済

之如有相之者ニ而ハ相無之御沙汰之ニ付候

是迄之候ニ付種類相書致し候相文致候之御書

以来其段相申上　以上

四月十九日

十
一　五月八日同四月御祈有之由之相渡し之事

以来御触上之節之其御書之ニ而金之品

子ノ四九潤ニ而御沙汰之上ニ而御申立候ニ付奉存候
此段宜御披露可被下候以上

丑月　日

判
――

村上五郎
長野作平印
池田長兵衛

別紙

百石以上ニ而ハ

御目見以前ニ而未勤仕ニ候　御扶持人ニ御座候

此分禄安并ニ改名相願候　百石之内ニ而相続候

二ケ年ニ而ハ相済候ニ付ニ付　遣候壹通ヲ遣ス

二ケ年

右御目見潤ニ付而ハ当書ニ御届ケ被申付候

養子之節書付ニ而

百石以上ニ而ハ

御目見以前ニ而未勤仕ニ候

御扶持人ニ而ハ禄安并ニ改名之節ハ九潤

是又宜敷も不相成事ニ付而者右之御
御了分之遠隔ニ付御受文無之候て
表御代官所ニ而人御帳面之趣
之御書之ノ字ハ不ニも不都合之儀ニ付
不万端以上之趣上可被成候様被下度
右之趣ニ以上

十一
一 六月七日 御家老衆より廻状

如 ─

以書状致啓上候 然者御用役方より御達
此節御役所ニ而御達之趣申達候
右之趣ニ候 以上
六月七日

如 ─

片岡[illegible]
須[illegible]
[illegible]

十二
一 七月十六日 御家老衆より
以手紙致啓上候 [illegible]
[illegible]

明十二日四時井戸対馬守殿役宅江可罷出旨
可被相達儀有之候間対馬守殿役宅江早速可罷出旨
新見伊勢守殿宅ニ而書付を以申渡候ニ付
以上
七月十一日
堀織部正
永井玄蕃頭
須田奉行御中

十三
一 閏七月廿六日 於同所

来月十一日新嘗祭ニ付 御目見相済候七ツ時より出勤可致候
不及申御触之人者中々難儀ニ候之所可申達候 以上
七月廿六日
右者同日之書付ヲ以別紙之通申渡候ニ付書付
写之通右者御門人姓名
右馬中務之御頭
伊藤常吉
右之御手附之者
松本小次郎

稲葉美濃守家来
寺嶋源八郎
有馬中務大輔家来
伊藤達之助
右之通り差出候以上

一十四
八月九日林家より左之通申達
石川宿地内ニ有之候地元之儀ニ付別紙之通致
松平河内守殿御名代書付御取調之
貢以后ノ札及貴公ニ付事紙並右ノ札共写差上

達し此一同ニ取計可申旨以上
八月九日
堀田備中守殿
林大学頭

別紙写

林大学頭殿
松平河内守
川路左衛門尉
宍戸(?)
竹内利兵衛

此度御取調之儀石川宿地内ニ有之候地境之儀
先年ニ付右之者十分ニ遂吟味可申堀根

樹木ハ先達而御申聞候ニ付差遣有之候樹

右ニ付此段及御達候

寅八月

宮下村

御書面之趣承知致候樹木御申聞之通ニ而御渡可申候

依之此段及御答候

寅

八月九日

林大学頭

一 八月十日 林家ゟ左之通

以手紙致啓上候然者川崎御用之儀御伺書等

願相済ニ付此段御承知被下候樹木

御渡之儀ニ付大学頭殿

城川殿ゟ申越候趣御達之趣ニ付

御同人様ゟも申越候儀ニ御座候

御承知之上御差支無之候ハヽ

返答之儀申上候依而御達申上候

下ゟ御請之通ニ付左様御承知可被下候以上

並ニ右大学説ニ而ハ難相成候 以上

八月十日

鈴木兵庫助

頭　　　印

御一　枚

別紙之通 大学頭ニ来ル由ニ而 右大意ニ候

同林大学頭殿

松平伊勢守
川路左衛門尉
宮城越前守
岩村吉之丞

内海兼松鳩の音語承り町奉行山路弥左衛門

国君被為召承候御請読師某太陽
和歌猿丸大夫ニ而御不残利ニ而大和御積
右之処其文ニ而も残し候得共御沙汰之中
兼務候

宿

八月

一 十五
八月十五日学問所ニ而 存候

以手紙啓上仕候 蘭林寮其外 ニ而致候
此御人中ニ而御勤仕候 寺社奉行ニ而御座候為

猶又無之候ハヽ御届ケ可被成候　以上

八月十二日

御役所

加藤縫殿

十六

一八月十六日熊野三山当番御断被申越候

当番之儀上置

金沢右衛門殿

当地蔵通り熊野御越ニ付右之通被成候熊野三山

御寄附金御催促当八月廿日差出上納仕候ニ付其

十二日ニ罷出品川御役所ヘ参り利銀員数御届

御勘定御目付方ニ差出候處御用ニ付達候

様被仰付候ニ付右様御達し申候

右之趣御勘定方ニ申達候處右之通可申旨

被仰付候ニ付当番之儀差支無之様上納

致候ニ付当八月廿日迄利足の分相納申候金

子之儀一条並信ニ差出候様御取計候事

願之通御免ニ付 当九月廿日より十月
廿日迄之間ニ右場所ニ而船借共年々
向定證之借受候事相済候ニ付
並ニ仍而拝借定之儀当九月晦日迄
此段御吟味之上此段申上候御届申上候
候得ニ御座候 以上

嘉永七寅年八月

駒町役場
月行事
年寄
名主
印

和泉町
何 ─ 印

紀伊様
御奉行所
寺社御奉行所

十七
一 九月晦日熊野三山御修覆為書面
右願之上可相渡
金弐百両拝借
右者於御領地被仰付候ニ付被仰渡候之由

御普請金被仰出當亥八月上納於月二當
請負傳請申出候ニ付御勘定所御聞済ニ相成候
二而去午年私義板書物御免被仰付候ニ付
取計申候處中之尼崎津守御沙汰御状
合継免罷越候此節當八月中下刊差置
御免未元年當九月十日ニ而上納仕候
可被相成雖御座候御聞済ニ
御座候ニ付上納出来兼候

右者私共儀書物板木御免ニ付冥加金
上納仕度旨願出候處雑用ニ付聞済ニ相成候
候間上ニ而御聞済ニ相成候得共
是迄之通被仰付候右冥加金之内
御下ケ之當十月廿日ニ而相納候
上納仕候未年當月迄ニ御願之通
御免被下候ニ付請状差上候間
板木御免之儀ニ付此段御願申上候以上

以上

年号　月

駒河越服守へお
月行事
知多郡
松平[illegible]
[illegible]御
[illegible]印

紀州様
御普請金
御[illegible]御用[illegible]

十八
一　十月三日　御用状并ニ　御書付　[illegible]

十九

高松人[illegible]　生国武蔵
[illegible]

文政五午年九月八日[illegible]
[illegible]
同年十二月[illegible]
[illegible]

一　十月十六日　[illegible]
[illegible]
[illegible]

右趣意之通此段我等申合之上遂吟味候所

為後日仍而如件以上

十月吉

村 ————

此度御免申請候寿

杉本若狭

阿部御中

二十

一 十二月貸附阿州之積金拠無相済書

覚

一銀百六拾五匁

但元銀五拾匁寅正月ゟ同丑年十二月迄之利足

但年々五割之利足

一銀八拾五匁下

但元銀五拾匁寅正月ゟ十月迄之利足

但五割之利足

一銀百三拾五匁

但元銀五拾匁寅正月ゟ十月迄之利足

但年々之利足

合銀三百七拾五匁

此銀六百弐拾三匁下ニ而御座候

右之通和宇阿川出来ニ付積金之内拝借仕度奉願候右ニ付以書面奉差上置候以上

寅十二月

[illegible]

安政二卯年

一 町地代金

二 尾州[illegible]

三 積金拝借日延

四 馬喰町御用屋敷[illegible]

五 新規

六 当[illegible]

七 道造[illegible]

八 開[illegible]

九 新規[illegible]

十 無縁三山[illegible]

十一 新規[illegible]

十二 [illegible]

十三 [illegible]

十四 無縁之[illegible]

十五 通り方御願

十六 鉄炮三挺御借

十七 種金御下ヶ願

十八 馬喰町御貸付金年延願

十九 湯治ニ付日限延之願書

二十 種金利足之延納

一

安政二卯年

一 四月十八日以御書付被仰出候此度御救之

為御年貢拾ヶ年賦上納被仰付候趣難有

奉承知候此段書付を以申上候

　　右ニ付上納

此度年賦金之内御返納方之儀相願候ニ付

御聞済ニ相成候間年々十一月中ニ上納仕

候様可被仰付候以上

卯三月十九日　堀伊賀守

達

右御書付　堀伊賀守

一三月十八日尾張家目附前ゟ相渡候書付
以御渡ニ相成候ニ付右ハ早年々差遣し
候節ニ付候
一新見豊前守より御目付衆へ三之丞江
御沙汰之趣相渡し目付衆へ相達候

之処今般其表堀越之儀御名代
御頼被下度旨被仰越候ニ付勘定方へ
申達候処右ニ付揚り之御場所一通
取扱候様可致旨申渡候
御届申上候以上

松平　松平淡路守

三月十九日

右之上御目付三之丞へ
一如此先達而申上候得共

道善之去々
子年中ゟ開帳被仰付候ニ付ニ而遣し
出張仕候ニ付私儀手前ゟ手傳候
帰り出張致し素ニ而以て其段相済申候
右之段申上置候 以上
子ノ年〇月 何某
[redacted]
松本源八郎殿

一 三
一 正月廿三日八代町御役所ゟ被成下候御書
書顔之覚
和字河原中當國檀家之内是迄之御繕修行
之者ニ而右ニ上ゟ之一分ニ而被下置候
候ニ付御検分之上相違無之様
前々之通相改候ニ付此度御奉行所
之者ニ而當分御修行之節離縁之様ニ被成
之事ニ付御當分ニ而當郡之内檀之下ニ至

金弐拾両　右者辞書類説撰之為年来精力
出精致候ニ付為其賞三月ゟ
之を仕立上ヶ候迄之間月々同代料請取候
之月四月五月之内ニ而遣候間相違無之様
相添積之候様可致候ニ付取計可被下候
候以上
正月　堀田 印

申上之 札
書面之通承届候間其旨可被申渡候
右正月廿六日八郎左衛門より中根勘右衛門
ニ而御渡之上留守居江相渡候右ニ付同人より支配
江申渡
一 正月廿七日御勘定所ゟ左之通御達
以手紙致啓上候然ハ和学講談所御用
辞書類説撰之為年来出精致候ニ付

分食拾女同年十二月十日より此物にて被食之事

引渡し指遣候子孫之事

一乍恐之儀申上候以上

酉ノ十二月

指出シ候

諸家役人衆

五
一 宗門御改帳面

当月廿六日 新蔵

宗旨御改ニ付 [illegible]

右宗門之者 [illegible] 人 [illegible]

以上

二月六日

右当之書出し

当宗門 [illegible] 人 姓名

寺島中務大輔様

阿部豊後守様

山口主水正様

松平出羽守様

伊東美濃守家来
稲村兵司
稲葉丹後守家来
本島源八郎

右之通ニ御座候以上
酉二月
相
坂 伊豆守

六
一 二月廿六日 [illegible]
以手紙致啓上候、然者去年十二月願之通
御目見之儀、[illegible]

右御礼[illegible]御老中[illegible]
江御届[illegible]
御目見[illegible]
[illegible]
此段[illegible]

二月廿六日
坂 ―
[illegible]
坂本 殿

右證書[illegible]中[illegible]候[illegible]大坂[illegible]候[illegible]
[illegible]中上

一 二月廿六日[illegible]御番所御書付
以手紙致啓上候、然者蘭[illegible]新草[illegible]候
出[illegible]人[illegible]
別[illegible]上

二月廿六日
[illegible]
御番所[illegible]

一 三月廿三日[illegible]
[illegible]律[illegible]

西郷[illegible]出候
[illegible]
[illegible]
[illegible]役[illegible]

中達候[illegible]廿[illegible]
[illegible]上
三月廿三日
[illegible]役[illegible]

不参候ニ　下ケ札

西脇―殿　右同断

三井五兵衛殿　―

三井宗兵衛殿　―

本多作左衛門殿　―

古郡孫大夫殿　―

横田又兵衛殿　―

伴野佐十郎殿　―

横田又太郎殿　―

内藤弥右衛門殿　―

水野清十郎殿　―

小林甚五左衛門殿　―

横田小四郎殿　―

金沢三右衛門殿

大橋源右衛門殿　―

右　―

右宗祇申し

一　近き世相国寺ニ蘭坡か書付御座候

　道節ニ不有之候

此二ヶ所ハ不及是非候津島に付て照之

古来相伝之古相国寺にて次第

宿ハ此上にて何やら上其後

在所のやうに申候也由の道有之事

甘露寺殿ニ被仰候ニ付て其由申候

是ハ道節の後命にて被仰候

遠く有之候由申候

なき事ハ何ともの中ニ候

有之其後西殿ニ被申候

限りなき事ニ候

被仰候とも申候

上にて被仰候

手の内ニ候

上

以之外ニ[illegible]之ニ而[illegible]事有之[illegible]

此者[illegible]出[illegible]

一[illegible]中ニ出来[illegible]

之[illegible]二ニ手ニ西[illegible]中ニ[illegible]

当[illegible]合[illegible]

ニ善[illegible]退出

当[illegible]

西[illegible]

一二ニ手ニ西[illegible]道[illegible]

以之[illegible]上[illegible]

[illegible]

[illegible]通[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

未不及[illegible]壁ニ出[illegible]差出候上

面ノ通

西[illegible] 秋元[illegible]

三井[illegible] 山本[illegible]

右ノ通[illegible]役

古渡 出口 大谷 奈良

横山 安田 樺山 横山 [illegible]

右ノ通り

明日[illegible]

此者[illegible]上書左之通

此右ノ七ヶ年[illegible]三井[illegible]相済

併[illegible]此段申達

八 一 七月二日[illegible]

一 春徳錦題文州

此條[illegible]

ニ付町奉行享保六丑年三月御停止被仰付
但し林大学頭様より御書付を以
一六物新志　待考之　三冊
此書ハ紅毛人之事共書入有之候ニ付
蘭書之訳ニ付町奉行享保六丑年三月御停止被仰付候
御停止被仰付
但シ奉行所御書付を以被仰渡候
一吊銅圖解

右は御書物事当時ニ而御当国人名ニ載有之
候ニ付寛延六丑年三月御停止被仰付
但シ奉行所より御書付を以
右御用掛御手前より本屋共手前ニ相達候様
京都ニ而被申上
午七月二日
行司中

九
一八月三日京都町奉行所御書付之通ニ而御停止被仰付
当月十四日新板御座候　寛政七午年相改

當国ニ而取扱候人之内壱人宛差出候様可申達候

以上

八月三日

松浦河内守

[illegible]殿

一八月日継飛脚ニ而御勘定所より差遣候

御用之書物之覚

刑名秘録 右拾部 右拾通之外 継飛脚ニ而御書翰

唐土先年より御停止被仰付候書籍之儀ニ付 續類

書籍并其外書物御国禁ニ而無之 差構候ハヽ見合候

様之書之類茂有之候 御免被成候 新書持渡来

唐船持渡書籍一冊毎中ニも不残相改 手本之

書物目録十冊ニ而可差出候 右書籍之儀

ハ 可改之候 中ニも改置候 而尚法之事

ニ候得共 此度 無之 違候事ニ可有之

書物ニ付 續類書籍并其外国禁書物者

於御殿ニ宮林吉之丞沢中御ニ而被成大病ニ能
彼之者ハ五年能宮殿ニ而一漸々ニ存し候て
唐物様　求メ候　田安様よりも同様並
物被成候ニ付而ハ沙汰も無之通申遣し候是ハ御様承申
年ハ前ニ而申達し候之差遣し　同様御書付相整可申
ニ付ても之ニ而之種御座候ニ付鉄ニ而仕置候
様之者ニ御座候も言上候ニ近々取調候様之儀
之儀御座候ニ付　右之ニ付　当八月

廿六日再度一番様ニ而御請仕候ニ付申上ニ御座候　洞中
仕置之者ニ而相手様へ宮島へ之旅其外御手様
苦しく彫刻中付候へ御兄弟之　是様子御彫
刻仕候ニ付ニ而ハ金銀右之御様子之　存
鉄子一ヶ年ニ而ニ御座候ハゝ候ニ付而ハ動座候
猶又ハ扨又御預ケ候様ニ御座候ニ付而ハ別段之
当九月上旬ニ相成ニ付右之儀ハ此節御座候
ニ上ニ而御儀候ハゝ御承知ニ前様之御様子ニ申上候

之通写之書ニ而有之ニ付三ヶ之明陸信法奥ニ新ニ
左之節之惣方申上候ニ付御奉行所ニ尤書面之通被仰
候ニ付今度御継目合出来候ニ付宿々新規
前様御改訂之外ニ而其筋ニ而自然御願
通方之儀路用之儀ニ而都合能申上候一通
右之儀ハ大坂ニ而何年前々より之通ニ而
上様御代ニ而御改ニ而御極候而其段ニ付
最初者御用之儀之儀ニ而御座候儀ニ付

先例之通ニ而御座候間御書物写ニ而御座候ニ付右之
申上候ニ而此節之ニ而 御極之内ニ而御極御座候
御座候ニ而書付御座候十日ニ而右之外ニ而御座候
右之通ニ而御座候ニ而中ニ而此節ニ而御座候
之儀ニ而御座候御座候ニ而御座候ニ而御座候
右之儀ニ而此段ニ而御座候ニ付御座候ニ而御座候
右之ニ而何年御極ニ而御座候ニ而御座候ニ而
御座候ニ而御極御座候ニ而御極ニ而御座候

右手形ニ而為替ニ取組候得共、両替屋江も
相渡し置候ニ付、右手形ニ而請取候而者、
右之通り出来候得共月々廿日ニ相納申候、
是迄納来候分共六ヶ月目ニ上納仕候右
毎々延引仕候ニ付、此度御聞済ニ
候得共右手形之通り右手形を以相納候様ニ二ヶ
大津之者同様相心得候様ニ而候とも
御為替御用ニ而相渡候仕方ニ付、相違無之候

右之書物一通ハ其之御用ニ付、為念差上仕候
ニ而差上申候自然右之趣を相守可被仰付候、別紙
書面之通り為御申上候、依而如件　右手形
卯八月
和泉河内
堺　治兵衛

右手形之事　両替屋上包ニ而仕分

右之儀者、御公儀御為替御用ニ而、所々
為替金ニ而御納所之分、御蔵相渡候様
御用銀ニ而為替金同前ニ而右之通ニ而候

手当金差遣候ニ付年々金三百両ツヽ
此儀ニ付作事方積リ之上相渡し上納候
出来候ニ付御金積書ニ〆而御普請出来候上ニ
以御当番ヲ以新規御領所御預ケ被下地代
金毎年三月七月両度ニ先規之通金子御渡し
金二百両ツヽ諸入用等之儀ハ宗門
門文之内遠路上納之所此節御下ケ被成
偏ニ奉願候以上

安政二卯年八月

紀州牟婁郡和宇浦
庄屋
極楽寺

紀州様
御寄附金
御役所

一 去月中熊野之山出之浦ニ而
当卯八月中ニ難船有之風雨ニ而手当として
熊野之山浦寄附金積立置候処追々新規之

此御役之儀も先月中より御新規ニ被仰付候ニ付
当家之儀ハ古来より上下共格別之御沙汰
ニ而諸事先例ニ相任セ御役柄之儀も甚無
之候ニ付今度之儀ハ格別之御儀ニ付
難有仕合ニ奉存候 右ニ付当家之儀ハ此後
満足仕候一同奉存候 上下共ニ
而御仰出候ニ付御新規ニ相成候 御役柄ニ[illegible]
[illegible]御座候 此段御承知可被下候 以上

[illegible]大切之儀ニ付御新規ニ而被仰付
[illegible]之儀ハ先年ゟ[illegible]
[illegible]相願候[illegible]
[illegible]
以[illegible] 当[illegible]新規ニ被仰付
当家[illegible]
右[illegible]御願[illegible]
[illegible]

若殿様以来之義一段宜目出度存候

且弟子共之義彌致稽古候様 相成候ハゝ猶更之事ニ有之

以後も申上置候通其月廿日迄利兵衛御伝授之節も

六ヶ月目毎ニ御扱之由被承候様御座候ハゝ

御堂自然之義ニ付可成丈心配之上御差出可申

可然候間大坂表江被仰渡候様可被成候

以上

卯九月

和泉守殿

堀 治部

十一

八月十七日新御番頭組頭江達

高島甲斐守
伊藤達三郎

稲葉右京亮
高島源八郎

松平丹後守
伊庭林八郎

永井(?)
大久保三郎

前之通可被相心得候 以上

八月

十二

一九月九日蘭人へ御尋之儀ニ付安紀安良自林家江相尋し
御答左之通　但右者蘭人[illegible]書付[illegible]
[illegible]ハ[illegible]之[illegible]

一 林大学頭殿
安紀安良

此度蘭書籍ニ而[illegible]蘭人[illegible]之[illegible]書[illegible]
[illegible]和名并[illegible]文[illegible]訳[illegible]候[illegible]和[illegible]
一[illegible]同[illegible]候[illegible]種[illegible]
[illegible]明[illegible]時[illegible]候[illegible]
[illegible]ニ[illegible]此段[illegible]

一九月
[illegible]

[illegible]林大学頭
九月

十三

一八月廿[illegible]日[illegible]南[illegible]

前段御用出入中ニ付本船之儀相成候ニ付
御聞届可被下候ニ付 此度ハ御聞届可被下候 以上

八月廿二日

坊城殿　勤番組頭

十四
一九月廿日熊野三山御修復御願之覚

御用之節願之覚

熊野三山御修復御入用銀二千一貫廿七匁余

之節も去年中より御直段御冊当月
中右上申之通御取計被成下度奉存
去月右之通ニ相成候処一日も早く
申付候可被下候様奉願上候
右之趣書物御聞届被成下候様
奉願上候 御聞届被成下候
御座候 御届申上候
御修復之儀ニ付

御本丸ニ御座候　右手形差上
酉九月　　坊―――

十五
一 九月十二日ニ御上ニ而[illegible]
医 心昌
右明十日於医学館御渡ニ付御届申上候
依之御届申上候以上
九月十一日　　坊―――

十六
一 九月廿日熊野三山[illegible]

熊野三山[illegible]新[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
九月廿[illegible]
坊―――様

十七
一 十月廿二日 [illegible]
田中仲[illegible]
酒井[illegible]
田中金之助
廿二日 [illegible]
廿三日 [illegible]

奉願候覚

当月二日被為召和泉守様御役所江罷出候処
其節被仰渡候者金拾両ニ付銀六拾目替之積を以
中山道筋之儀者右相場之通諸雑費等ニ付相渡候様
被仰付和泉守様御役所ニ而右御種金前々ゟ
御座候得共此度右之趣ニ而御差支無之候ニ付
御種金御下ケ被成下候様奉願上候然ル上者
此者共之義ニ付御座候ニ付右之趣御願申上候

右之趣奉願上候所御聞済之上右御種金御下ケ
被成下候ハヽ早速御請可仕候右之通相違無御座候
御尋之節ハ右之通ニ付御座候得共何卒御慈悲
を以右之趣御聞済被成下置候ハヽ難有仕合ニ奉存候
尚又難渋之者共へ御種金御下ケ被成下候様
一同奉願上候以上

卯
十月
坂　惣兵衛

御奉行所

十八
一十二月廿八日於御前ニ御渡之御書付

嵩之右御伺済ニて
新ニ追補金
御預り置候分

寺社奉行へ

和学講談所御取扱并雑書類保存方之儀ニ付て
学問所御用金之内より此度年々頭取金子
上納方年賦ニ而当寅年分金拾両并毎年相渡候様
被申渡候処去ル卯十一月二十日地方御老中相知

学問所御用不相成ニ付右御用金之
被仰付候ニ付此度御渡候ニ付
渡候ニ付右御用廉ニ而御用金之内より
相渡候ニ付金子三十両ニ而
当年分上納方当卯年分一ケ年年延
之儀被仰候ニ付右之通相心得候
其段御沙汰被成候様可被申候以上

卯十一月

右

十九
一十二月廿二日於御前上野御宮御参詣被遊候

之分年賦取立候　但〃当分差上候様　御当役所
差出し置候処猶又御当分之儀ニ而　被仰付候ニ付
此上右拝借之年賦取立候

右同之上納願之事

当卯七月拝借仕候御運上金納方之儀追々
御願仕候処格別之以御勘弁上納方之儀御聞
済ニ相成候ニ付拝借仕候上納之上ニ而
当十月二十日之地所拝借不残差上候

既ニ無御座候ニ付当之儀者重々奉恐入候得共
済之儀ニ申上候得共猶又拝借仕候儀奉恐入
出来兼候ニ付其段被仰付候ニ付此上ハ日々
御開発勘弁ニ付其段相願候右儀ニ付入置候ニ
上納方之儀ニ付当方ニ而金子取立候ニ付
当方金子取立上納仕候ニ付右ニ而上納仕候
其余之儀ハ追々以御勘弁ヲ以拝借仕候
通御願仕候ニ付其余之御用当卯十二月

十日御免金拾弐年辰年廿七月十日事務方同年
十二月十日今拾弐年七月十日今度拾弐年
四ヶ年之割合御利足金之済方去ル年延ヘ
之割合ニ付候而御免金ニ相添上納仕候右ニ付
此段出精之儀勤方之儀御用ニ相成候儀ニ付
願之通被仰付候様上納之上御沙汰
遣度奉願候以上当年之儀も内実之
節右之上納方御免之場合ニ而御座候儀

当七月中ニ御用済之上御救ニ事業奉為御座候
甚ニ付而者窮難候故都而之上ニ而願候
儀者出精ニ付候而御座候之内ニ付難去
者共候之方正浄上納方出来之段御見込之上
自由ニ不相成候ニ付此段経済之儀も願之
御沙汰之上願候儀此段御聞済被成下候様
御仁恵之程偏ニ奉願上候以上

申十二月

柳沢印

是書

前書之通新勝五郎加増

江戸表迄之通兵衛被仰付

摂津 浮行院

此度新勝之者共ニ被仰付候ニ付御役太田兵部割

今年卯年之節中村兵衛御代官十二月

十月之通ニ相済候之上 [illegible]

道 [illegible] 割合之事

是ヨリ御代官支配之内 土佐守尚卯年十

二月中之御代官十月二日地方代官

諸雑事之御礼ニ雑用之趣申之上

卯年十二月　此度之通相済

同卯七月分土月之ニ付御代官支配之通

辰年七月　ゆ之通相済

同辰年十二月分同年七月之ニ付代官支配之通

同年十二月　之通相済

但同年
従去亥七月ゟ去ル十二月迄之利足請納
之年七月　　　ゟ之者ゟ請取可申
但辰年十二月ゟ同年七月迄之利足
右之通上納
右之通割合上納仕候ニ付新来ニ而も差障り無御座候
難有存候ニ付此上も割合を以遣可申候
右之上納ニ付以後も納方割合書付を以差上
三月廿日　以上

卯十二月

二十
一　十二月十八日御書付出

此度之本郷人数

和学所非常種痘屋共之届ニ付是迄
相成候ニ付種痘之義御取調之上当十月
二月之被仰出ニ和学所江ニ相渡ニ付弐拾弐ニ
相成候ニ付被仰付度候ニ付御届申上候
新規之義ニ付御尋ニ付右之通御届申上候

右

見苦敷筆蹟無是非候得共
知調候ニ付上利是等之趣相認申候
御座候ハヽ我等方へ被仰聞候尚委細
其後御様子御尋申上度候
時節柄御自愛可被成候以上
卯十二月
拝次郎

当月之始ニ御座候ハヽ
御下り可被成候

御飛脚被下候処十二月廿三日到来致し
拝見申候
以手紙啓上仕候然者貴殿御家業ニ付
此節御尋申候処御返事
中村殿へ御申し上
十二月廿三日
拝

新右衛門
様御報

十五〇 十六〇 十七十八

一 [illegible]

二 [illegible]

三 [illegible]

四 [illegible]

五 [illegible]

六 [illegible]

七 [illegible]三山[illegible]

八 [illegible]

九 [illegible]

十 [illegible]

十一 [illegible]

十二 [illegible]

十三 [illegible]

十四 [illegible]

十五 十七 [illegible]

十六 十八 [illegible]

十五 地代取立候事

十六 普請修覆出来候事

一 安政三辰年

一 一 正月十八日地代受取候処右八月分中半三年
分滞有之候ニ付申聞候処

二 一 西ノ十七日八ツ時頃右之者呼出候処
其外ニ預り置候証文之儀申達候処
町奉行所ニ而申立候儀ニ付
武家方之儀ニ付一同差出候
御沙汰之上相済候様申聞候

例おほく様にも主膳正もし又ハ洞院なとの
有之候事也
中納言ハ中将より直ニ例有之候所也職事数々
殊ニ有之ニ参議ニ任し候ハる是例ニ
御座候例有之候故ニも存候ニ
宗言と申者ハ右卿ニ参議ニ任候上総
島津家中納言ニ任候例も無之
候ハ大納言と直ニ例も無之一向無之候

右中ハ此様御ニ付て京家ニ被任候例御座候
候ハ大納言ニ中将より直ニ参議家ニ限り
候儀ニ候清華家大臣家ニても一向例無之候
又ハ右摂家ニ有之候得共是雖無之候
と存候以上

坊城 印

則御ニ例書抜出候趣御座候

武家例

源實朝建保三年六月廿日任權中納言左中將 松

松家近代例

九條藤輔實延寶八年十二月十五日任權中納言左中將

二條藤綱平天和三年十二月十五日任權中納言同日左中將

近衛藤家久元祿九年十二月廿八日任中納言左中將如元

九條藤師孝元祿十年十二月廿六日任權中納言左中將如元

二條藤宗熈享保十五年五月廿八日任權中納言左中將如元

二條藤宗基元文五年八月一日任權中納言左中將如元

鷹司藤輔平延享五年五月十四日任權中納言左中將如元

九條藤道前寶曆三年十二月廿五日任權中納言右中將如元

二條藤重良寶曆九年正月廿九日任權中納言左中將如元

後一條藤忠良天明五年八月十七日任權中納言左中將如元

前二條藤治孝明和八年四月十八日任權中納言左中將

鷹司藤政通寛政五年權中納言右中將

近衛藤基前寛政六年正月十三日任權中納言左中將如元

九條藤輔嗣寛政九年二月廿四日任權中納言右中將如元

鷹司藤政通 寛政十二年八月十六日任権中納言左中将如元

一 正月晦日ハ御内縁書付ニ而被仰出候由

右内々申聞候覧

去卯年十月二日之地震ニ而和学所ニ而土蔵共十ヶ所
通[illegible]書物御用向之方ニ而破損致候文庫之
大破損[illegible]和学所並[illegible]之方ニ而大破ニ相成候方を
屋[illegible]根之上[illegible]相成候

和学所之家之中大破損ニ相成[illegible]候
二付[illegible]一ヶ月修復[illegible]候
修復之[illegible]之家[illegible]候
[illegible]雨天之節ニ者[illegible]雨漏ニ而[illegible]
[illegible]一同迷惑[illegible]上[illegible]候
[illegible]屋根[illegible]候[illegible]
数[illegible]之[illegible]ニ而[illegible]屋根[illegible]
[illegible]八[illegible]屋根[illegible]

ニ付申上候長上大学頭方江申上候処是迄之通

取計ひ度大学頭儀も十六日御目付衆立会文庫へ参り

入用之品々御引分ケ被下候様申上候処其後中ニ而出之

之儀御目付衆立合被遊候ニ付上旦御座候ニ

達無之候旨御書物奉行御書物方并地方ニ而取扱

其後之儀ニ付取計候旨申上候処新規入用之品

御書物奉行七人一同ニ而御書物之儀も承知仕候ニ付

其後右之段ニ而新規御書物之儀申上

仕候書物類取扱之儀被仰付候

是又御書物奉行衆中より御書物奉行之儀

四方衆中より書物類之儀申上候間

用之事ニ而一同相談之上申上候

之儀御書物方申上候間之儀

申上候御書物類之儀申上候

或は書物之儀申上候

無之候

其後右出来 検校 群書類従ニ而 御座候 其節 右出来候ニ付
仕候ニ付 諸侯 令之 者願候 大学頭 御取 之
此節 右様 御座候 諸侯 之 大学頭 候
御奉行 ニ 御座 馬場 所出 相 右 御取 候
下候 右 学科 同様 ニ 御座 大 ニ 相
毎年 御 相 手 所 候 御金 弐百五十両 一ケ年ニ 大 被
此下 候 ニ 可 相 付 御 右 之 旨
ニ 遣 候 得 御 之 迄 ニ 無之 処

一 寛政五丑年 八 御 検校 者 不 御 ニ 年 ニ 御 願 被 仰付
此 者 御 世 之 群書 類 従 之 和学 所
願 之 通 被 仰付 候 和学 所 学科 ニ 御 仰 申 調 所
并 ニ 寛 中 ニ 御 稽古 所 之 文 之 文庫 ニ
之 御 座 候 御 書 物 御 用 調 之
初 而 稽古 所 ニ 而 御 文 家 業 相 勤
温故 之 御 新 規 品 川 御 候 ニ 而 精 手
庫 ニ 一 ケ 年 中 書 籍 御 貸 之 精 手 庫 ニ

服部九郎兵衛ニ[illegible]御下ケ之者ニ[illegible]持参[illegible]
嘩之上ニ実正ニ付候而自然[illegible]有之候
様ニ平常[illegible]之処[illegible]根[illegible]
[illegible]ニ[illegible]喧嘩
[illegible]路[illegible]達[illegible]候[illegible]
[illegible]金[illegible]其年
中[illegible]関[illegible]一[illegible]
年[illegible]

右之[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

辰
正月

[illegible]次郎

一 二月[illegible]
[illegible]

無尽ニ而借受候金去卯年九月中より借増仕
候処右拾手御下ケ金ニ付御地金ニ付右為替（借）
元利返済之処去十月二日迄返済方之儀御座候
一同拾年賦御願仕候得共御取調仕候処猶又拾年
共御猶予奉願上候処格別之以御慈悲是迄
申上候間御格別を以御聞済被成下候ハヽ御貸附
年々難渋之上ニ而難渋之儀ニ付何卒
諸勘定仕置候上返済方之儀ニ付何卒御慈悲以

外ニ自調米等之上ニ而戸前渡方之儀ニ付其者之
五ヶ年賦諸雑用等ニ而差支候ニ付
我等当二月上納之砌何分ニも必至与差支難渋
仕候間当時元利共一ト先ツ上納之儀ハ見合セ
之儀ニ而金子御座候得共何分是迄之儀ニ而
備当ハ返済之儀も当年中ニ期月納之儀
御座候ハヽ上納之儀ハ格別ニ御勘弁被下候而
蔵元江も御渡可申候割新申

右者上ゟ毛利町地代金を以年賦ニ而御拝借仕候ニ付
御金之儀ハ右地代金を以御返済可仕候得共右
元金之内ゟ当月ゟ壱ヶ年分御下ケ被下候ニ付
新地築地之儀御勘定所ゟ差上候分
毛利町之儀ハ是迄之通り毎月上納之積を以御
申渡有之候ハヽ右返済之節差支無之様仕度
奉存候此段御願申上候以上

酉
二月

和学所附
塙次郎

右新地之儀ニ付

覚 金三百両

右者新地築地ニ付和学所御入用として先達而御拝借
附置金之内当辰二月ゟ二年之間元利上納仕候
新規金三百両之儀 [illegible] 御返済之儀
是迄之通右金子之内ゟ此度御拝借新地
築地之儀新地願之節地代之内ゟ右金
年々十二月迄ニ急度上納可仕候 [illegible]

安房守殿江可被差遣候上ハ御承知被下候様仕度
此段御届申上候以上
安政三辰年二月
鞆河龍野寺門前
月行事
家主
杉兵衛
安房守
和泉守殿
所 太郎兵衛
池田様
寺社御奉行
内藤御役所

一　二月六日寺社御奉行所ゟ御呼出之処
罷出候処二月十六日迄差出可申候旨
被仰渡候
右御請書差出候

[illegible]
浄蔵寺
稲葉丹後守家来
本多
松平丹波守家来
浄蔵寺
山内志摩守家来
松岡
[illegible]

右之通御座候以上

辰二月　坂津□印

六

一　二月十七日当□□□并種金□□□□□□物来

一　二月廿日当□□□□□□□□□□□□□□□金□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
[illegible]

両□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□
二月廿日

□□□□□□□□□□□□□□利□□□□□□□□
□□以上

七

一　二月廿日□□□□□□□□□利□□□□□□□□□
□□□□□□利足□□□□□□
□□

金六両

右ハ去卯九月中ゟ御役所江金三両壱分宛利足

二所ゟ差出シ上納仕候處当辰四月五月

足ニ上納仕度奉存上

右

二月廿日　　　　　　　　　　　　悦（？）下り候

三季年賦済共御差出し可申候者ニ付

証文ニ仕置候得共御下ケニ而御座候

一丸之年　　　　　　　　　　　　之ニ

無拠之品御貸附金御貸附ニ而金三両

御加相元一同ニ被借請候ニ付

御役所ニ而新御貸附金

御役所ニ而以上

安政三辰年十二月

御貸附金
御役所
御手附御役所

八
一 二月十五日 八幡宮江参詣 於当社御神楽
被仰付候ニ付 同月廿日ニ給
三昧 於拝殿 御神楽 被成候 御参詣有之

九
一 二月廿三日 当社所司代
以書状 得御意候 然者 新宮 [illegible] 云々
御目録 [illegible] 被仰付候 [illegible]
御 [illegible] 御尋 [illegible] 候以上
二月廿三日

十
一 三月廿三日 八幡 [illegible] 御寺役 御奉納
以書状 得御意候 然者 [illegible] 大学頭 [illegible]
御目録 [illegible] 被仰付候 御 [illegible] 御座候
[illegible] 御座候以上
三月廿三日
[illegible] 以上
[illegible] 八幡宮 [illegible]

御奉行 [illegible] 紙面

内意之覚

勝次郎

去卯年十月二日堀之屋敷ニ而和田不残中之
之者共清七江書物出目録通リ之有御取扱被下候文
庫蔵書類并得共向之元者殿御同様修補
抄書類共不残之和ニ而修補仕候ニ付之充
自分二相成候分之写へ入用之義ニ付被為下候様被仰
渡候ニ付御渡被下置候ニ付年割を以御済方

十

一 当卯年八月出来ニ付当分ニ度々金弐拾両ツヽ被下
御仕法ニ御座候而右外修補出候ニ付之候ニ付年
追々修補仕候ニ付拾両ツヽ被下度奉
存候得事ニ付御渡被下候ニ付年中御下ケ渡ニ
一 四月廿四日御渡被下候ニ付重ニ内金拾両下置
ニ而廿両也
以上御渡被下候ニ付追而書出し并取扱
其子共ニ付中々積ニ付可有之

此度当村御用ニ付此段ニ付奉恐入候得共奉願上候以上
何卒御聞済

一 諸役所入用

惣兵衛 百姓代
組頭 坂本弥助
石原太左衛門

別紙之通

一 御役所様御用ニ付別紙御頼ニ付取計申候 村役人
[illegible]

惣兵衛郎

常々右之内御座候ニ付右金子渡し申候

前々ゟ御領分ニ而右金子之内ニ而右之通り
別紙書付ニ而請取之段相願候得ハ
取来り候ニ付右之通相渡候

請取證文

請取申金子之事

一 金 両也
金 拾両也 右ハ

内
金 両也

右ハ [illegible]
右ハ [illegible]

去ル午年残金分卯ゟ拾ケ年
ゟ一時ニ丑年ゟ九ケ年

金弐両弐分

残金弐百六拾六両弐分ト永弐百文

一金弐百両　此金一時御下ケ被成

此外利足永料同様ニ而此度御済之金弐百両

去ル卯年ゟ差引済之年賦金利金此御済ニ而

出来之処卯ゟ卯迄三拾七年ニ割合去ル年

金弐拾五両弐分永百八拾文余不残来年ゟ金弐拾両

去ル分永百五拾文ゟ御下ケ之積去ル卯ゟ

年迄四ケ年分金八拾六両去ル卯ゟ五拾文積

去ル御勘残金七拾拾両弐分永百文ゟ未ゟ

年迄拾弐ケ年分金弐百五拾両一時ニ未年ゟ引

御勘残金四百六拾両弐分永百文内拾ケ

年ゟ弐百両一時ニ丑年ゟ九ケ年御勘拾文ゟ

上納弐百両一時御下ケ之積書面之通

請書中承知仕候

安政三辰年　四月

御勘定所

御達之写

出役所

本業之儀ハ元禄之頃草稿有之、集成所出役

訓之様被申付、清書出来ニ付、御届申上候

可然候

覚

和漢年契甚不足ニ付、今般増補出来候ニ付、[illegible]

同書[illegible]所へ御届[illegible]

[illegible]伺済之上申上候

以上

四月十五日　塙次郎

十二
一　四月日学問所ゟ開板伺、同月廿四日伺済

刪補和漢年契

右者[illegible]山[illegible]

[illegible]

久能御宮之交易来り門人之御宮附関枝改段
之通致承知候以上
辰六月
和泉河附
堀織部印
此書付
関枝不苦候出来之上三之泉河に相納め
申訳改候年月書付置可申候
辰四月廿四日
十三
一　諸役所之御所普請出来之月日丈調可被

十四
此書付
和泉河へ申遣候四月廿五日分御普請之儀
渡之候と米料調和成之候間者出来
申候日廿二日安料調来候得共
御修覆之御料上置候様可被成候
其上右之者御達之候一の申上候以上
辰四月廿二日
堀織部印
一　去月廿四日和泉右日附調之丈年之

一 寺社奉行ゟ御尋之事
文化三寅年十月廿九日 寺社御調ニ付御達
之書一通ニ而達之事
武家名目書集ニ御撰ニ被仰付候ニ付
公家史料此之書序并文編之抜一ヶ
被申
文化四卯年十二月廿四日 右之通上申出候事
先之其者一ニ 御渡ニ付武家名目之御書出之

其外出羽守より申上候 寺社之調査ニ付寺
何分前々より被仰付候ニ付 之分御用ニ付相
御尋之趣を取調候 御届申上 奉願上候
之事ニ付候以上
十一月　　林様
同年十二月廿二日出ニ付御事　　林様
史料編纂武家名目之書識 候ニ付此之事存候

出入致候ニ付ては御年寄衆方ゟ御奉行所

關所之儀者先此度書出し之通可被相心得候

右之通可被申達旨萬石以上之面々江可被相達候

右之趣御代官御料所私領者寺社領江も

文政十亥年三月廿四日 戌十四日

武家右同断但文言文言中

より二三ケ条ニて耕地目録右寺社領

諸家出勤之節

但諸役人右同断寺社領手控中

山中町奉行之面々年

武家右同断文言ニ而差出

織部郎　　　　錦師郎　　　　右沂郎

主税郎　　　　又平郎　　　　主水郎

字助郎　　　　儀助郎　　　　弓蔵郎

甲斐郎　　　　刀鍛郎　　　　禎備郎

豊之郎　　　　郷藏郎　　　　筆作郎

雜部

以上

同年四月五日請觀音御武家名目抄

寛政年

濟之由ニ付右書案料村上天皇之事紀綱色

ニ有之候ニ付流名目抄 拾八冊 並表紙壹軍

武家名目抄調進之

天保七申年十月廿九日

職名部之自一至十七 三拾冊

同十一子年四月廿五日

同 自十八至廿五 拾六冊

同十二丑年十二月十四日

同 自廿六至卅四 拾七冊

右三ヶ度ニ都合六拾冊調候之外ニ残之表紙之調

進之御返之分之義ニ

十五

一 七月十日林家より

一 十七

坂本右衛門
堀井千次郎
石原左市郎

堀次郎様

唯今井戸對馬守様ゟ別紙之通申達候
ニ付写差上申候此段御承知可被成候
右之段御承知被成度如此御座候以上
　七月十日

別紙

新三郎
堀次郎

一 十六
此度南部表湊江罷越候ニ付四ヶ村ゟ出候
役人之儀者其外之通ニ候
一 九月六日八湖ゟ出帆
此度之儀ニ付御届申上候
南部表八月廿五日夜ゟ大風雨ニ而海岸
手稽古所ニ而役人共ゟ申立趣意之ニ付而ハ
右御支配所之儀者海辺ニ而極而
届之儀先大破ニ及ひ当所ニ而相成候ニ付

此度右役所持候者ハ不相知候
右之人之義も不相知段承候ニ付雑費入不申候
御領主へ手紙を以御普請之儀御願申上候
都而諸経費ハ不相知候ニ付ハ御役所之
出役ニ相成候ニ付出張いたし候ニ付拙者
御役所ニ而難儀仕候渡出来候ニ付上申上候
御役所ニ而難儀仕候ニ付上候而甚難渋
候儀ニ而自然と人々之難渋之出来仕候

自分ニ而無之故ニ一同如何と相談いたし御伝馬之儀
当役所よりも被仰付候ニ而此節ニ至り候而茂難渋ニ付
毎々御手当下され候様如何之御願ニ付御沙汰
在之自然御下知被為在候ニ付宜敷御取計
之御出来ニ而御役所之難儀仕候之処御手当
中上候処此之年々村役人ニ而難渋之処
御役所之此段相成候様御願申上候処
下知ニ相成候処被仰付候上者此段申上候

右様於于今御座候得共新土石信し
此段御届申上候以上
辰九月
坂次郎
九月廿八日御渡
坂次郎殿
能勢肥後守
坂部能登守
大久保豊後守
以書付申上候、然ル処御勘定所御廻し被成候
御礼之儀御差出し候而ハ御差支之趣申上候
差上候御下知様ニ而新規御取計之趣ニ而此段
下々様へ御断可申上候以上
九月十八日
新土免から御礼
土免之儀御渡被成候ニ
付而ハ右御新規御座候
右年々九月ニ而御勘定所御下知ニ而八月ニ
御伺之上御座候

口上覚

諸役所共此度風雅ニ付御事目当御役屋
江御通行之儀御用之節ハ右件何分
此分ニ付御役所之上御頼申上候　此度御屋敷
難有仕合ニ奉存候　此旨御届申上候

九月九日　　　　　　　　　　　　坊城印

十七 一風雅之事ニ而越年候迄ニ御出九月十六日迄
調方ニ付自邸在宅之事

請前中此旨被仰附候事

着会之ニ付右外ニ而　然者拙者也
右是迄拙者屋敷宅風雅ニ付当年十月
朔日より同十二月廿日迄会合ニ付九日より相成候
相ニ付右之趣ニ付此旨申上候ニ付

安政三辰年九月

　　　　　　　　　　　　　　坊城印

　　　　　　　右役所御中
三原新兵衛殿

表書之通ニ而承知致候旨申上
以上
林大学殿

十八
一十二月廿四日八ツ時前致出頭候処左之通

堀織部正
林大学殿
林図書之助

御用之儀ニ付同所明朝四ツ時林大学殿

宅ニ而可被相越候 以上
十二月廿四日
堀織部正
林図書之助
林大学殿

右御用ニ付同人宅江罷越候処左之通

堀織部正殿

[illegible]

以来織部殿被申渡候ハ大学殿今度[illegible]

之御年貢諸役等ニ至迄差障り候ハヽ急度
其方御引請ケ如何様ニも御差支無之様
可仕候、為後日御請書差出申候
仍而如件

十二月廿八日

右之通差上候趣承知致し候處相違無之
拙者共承知致し
甚八殿

加藤太郎

舞台之儀相勤候ニ付年々見物相勤候由
出精致候ニ付格別之
太鼓打ニ御座候ニ付御年貢御免
被成候ニ付是ニ而御請書之
通り御請申上候

右之通相勤候ニ付
出精致候ニ付
差上申候
加藤太郎

御年始祝儀として為御祝儀出候様ニ付御田
人衆ニ茂亦音并同役中之衆中用人衆へも遣ス又
門前ニ而年寄共へ又被下 年番へ六文宛被遣
上之